説教要旨　「隙だらけの我が家」

ルカによる福音書１１章２４～２８節

ルカ福音書１１章１４節以下には、イエス様に悪霊を追い出していただいて、それまで口が利けなかった人がものを言い始めたことが記されていました。

それを受けて２４～２６節には、汚れた霊が人から出て行き、うろついたあげくまた戻って来る、ということが語られています。それは、イエス様の働きによって悪霊から解放された人は、その後どうなるのか、という話になります。

悪霊は、人から追い出されると、休む場所を探しますが見つからない。それで結局「出て来たわが家に戻ろう」と言って戻って来るのです。悪霊にとって、私たちの中こそが「わが家」であり、安住の地だというのです。悪霊は、一旦は追い出されても、隙あらば戻って来ようと狙っているのです。

マタイ福音書の並行記事（12:43~45）では、汚れた霊が戻ってきたところにこのように語られています。「戻ってみると、空き家になっており、掃除をして、整えられていた」（44 節）。この私たちという家は掃除され、きれいに整えられてはいるけれど、空き家であり、家主がいないというのです。イエス様に悪霊を追い出してもらって、「よかった、よかった」と、自分という家をきれいに掃除をして整えたとしても、家を守る人がいない空き家になっていたならば、結局は前より悪い悪霊に占拠されてしまいます。私たちが、自分で家を守っている状態というのは、悪霊にとってはなんのセキュリティーもしていない空き家と何も変わりません。しっかりと対策をして家を守っているつもりでも、悪霊に本気で狙われたなら結局は対抗できず、前よりも悪い状態になってしまうのです。

イエス様によって悩みや苦しみから救っていただいた後は、もうイエス様も神様も必要ない、自分で自分を整え自分の力だけでやっていけると思い違いをしてはいないでしょうか。そのような状態は、悪霊にとって隙だらけで、結局は以前より強い悪霊に占拠されてしまうのです。大切なことは、自分という家をイエス様に明け渡し、イエス様を自分という家の主として迎え入れることなのです。

（２０１９・６・２　説教者：稲垣真実）